

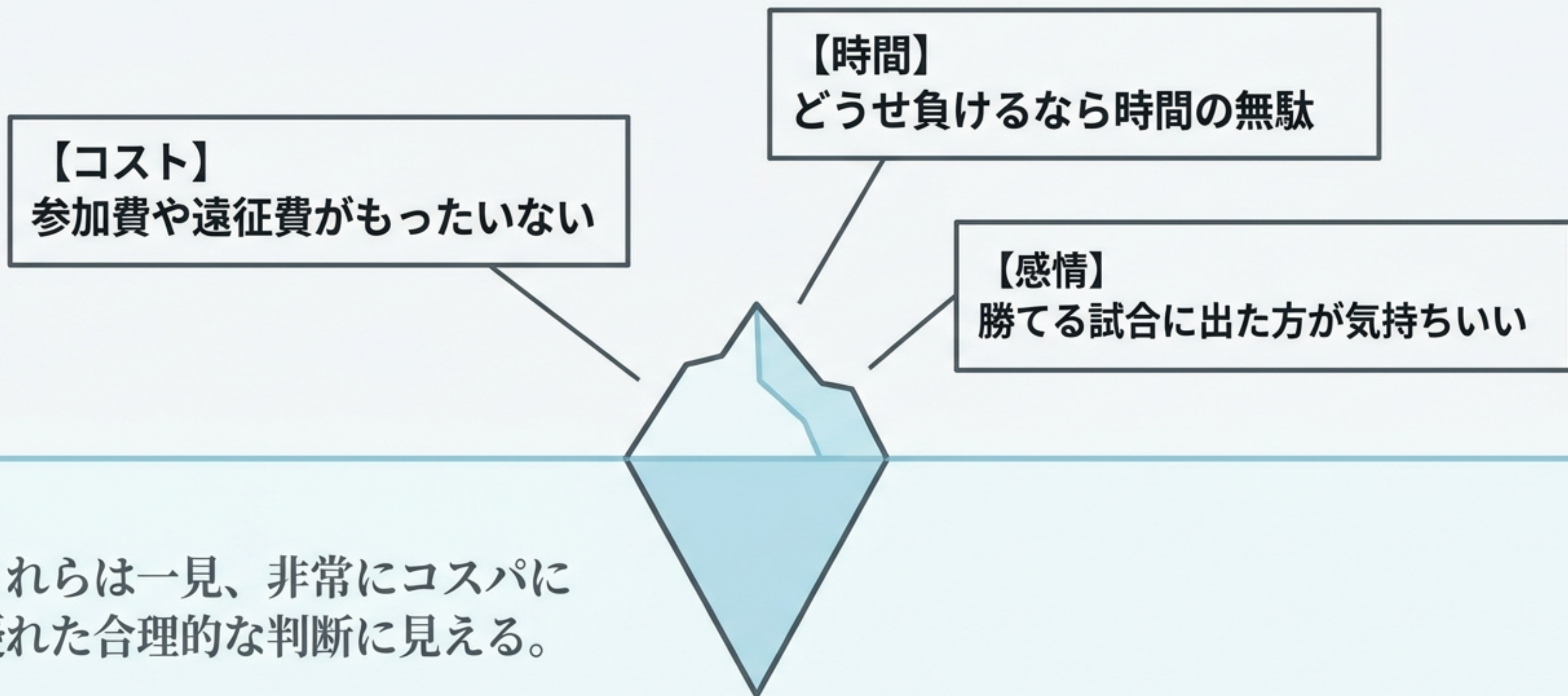


「勝ち上がれない試合に出るのは損」という幻想。

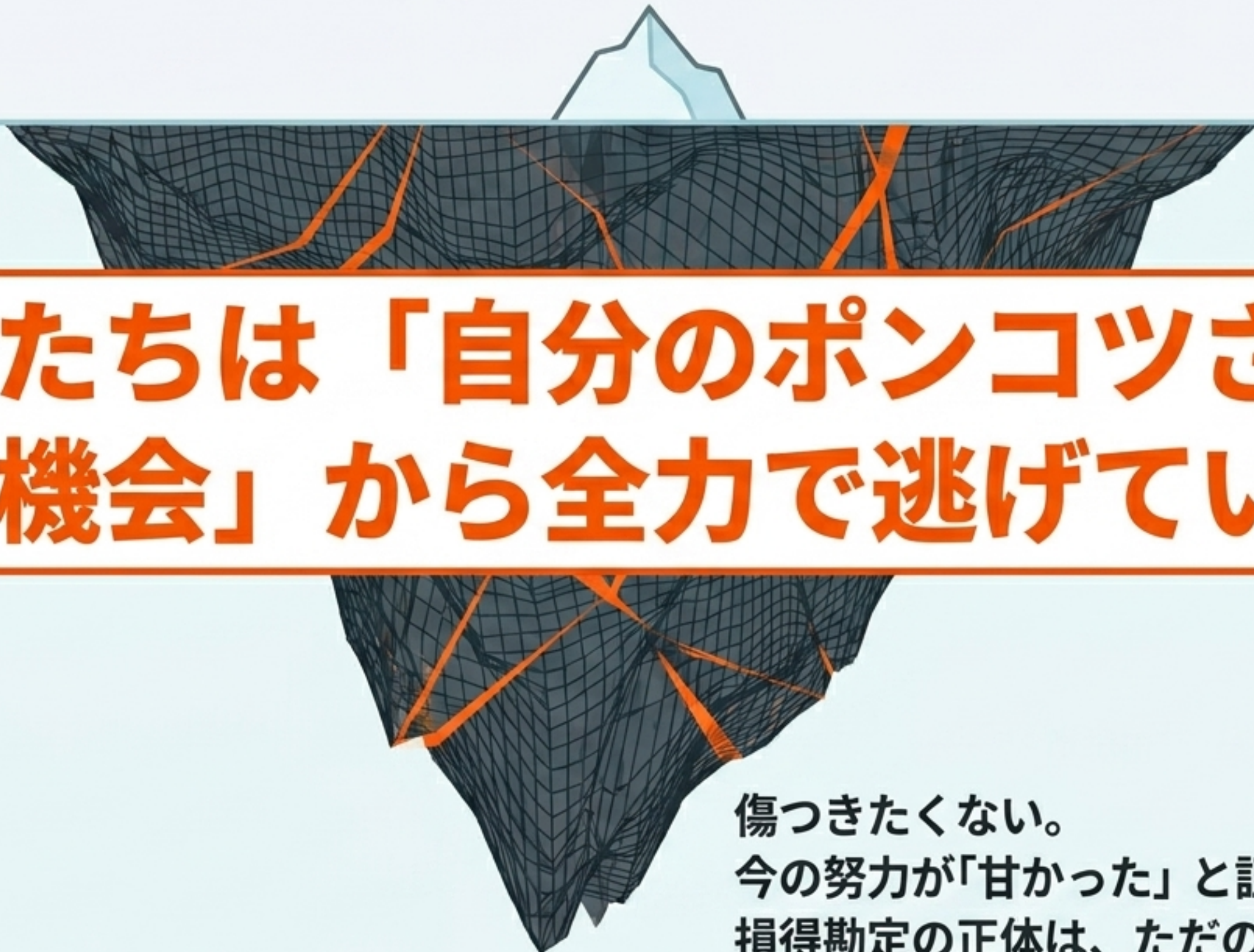
～敗北という名の特等席へようこそ～

成長と自己変革のためのマインドシフト

私たちが「上のレベル」を避ける、極めて合理的な理由



合理性の裏に潜む、生々しい「自己防衛」の本能

An illustration of an iceberg floating in light blue water. The tip of the iceberg is a small, sharp peak of light blue ice. The vast majority of the iceberg is submerged and rendered in a dark blue, wireframe mesh style, with several jagged orange lines representing cracks or fractures running through its structure. This visual metaphor represents the concept of hidden instincts or vulnerabilities beneath a rational surface.

私たちは「自分のポンコツさを知る機会」から全力で逃げている。

傷つきたくない。
今の努力が「甘かった」と証明されるのが怖い。
損得勘定の正体は、ただの自己防衛である。

「ポンコツ」とは人格否定ではなく、 単なるシステムエラーである

【アイデンティティ】
人間としての価値・才能



安全・無関係

【現在のスペック】
今の技術・判断・精神状態

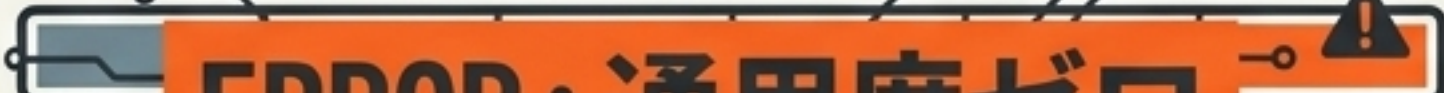


レベル：上級

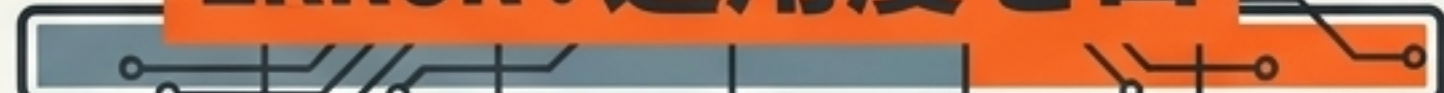
技術



判断



準備



精神



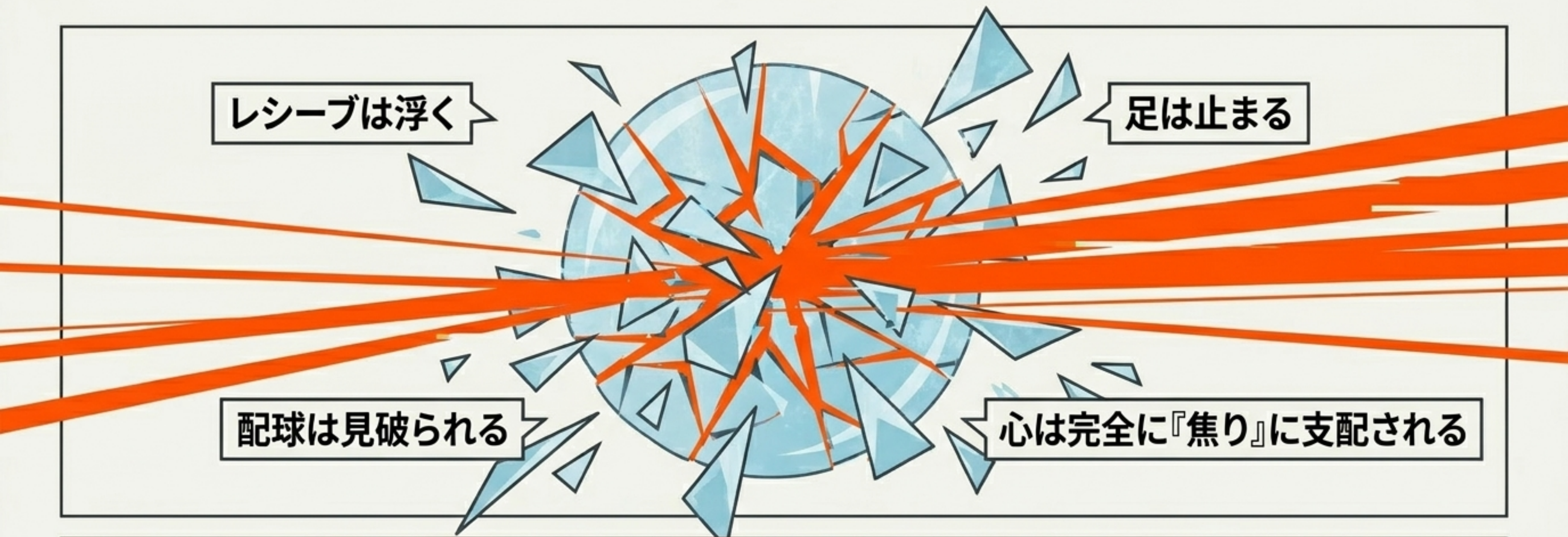
あなた自身がダメなのではない。今のあなたの「試合設計」が、
上のレベルでは全く機能しないという冷徹な事実の確認に過ぎない。

「知っている世界」が作り出す甘美な錯覚

お馴染みの環境、知っている相手、
知っている展開。安全地帯の中では、私
たちはいくらでも現在の自分を都合よく
肯定し、ごまかすことができる。



勝ち上がれない舞台に立った瞬間、 幻想は粉碎される



レシーブは浮く

足は止まる

配球は見破られる

心は完全に『焦り』に支配される

「あ、自分は思っていたより全然できていない」という残酷な瞬間の到来。

選択：錯覚を買い続けるか、現実を直視するか

	【安全地帯】	【現実の試合】
目的	自尊心を守る	幻想を破壊する
状態	弱さを知らないまま 気持ちよくプレーする	自分のポンコツさを 正確に測定する
長期結果	成長機会の完全な喪失	本当の変革のスタートライン

人生における「最大の損失」とは何か

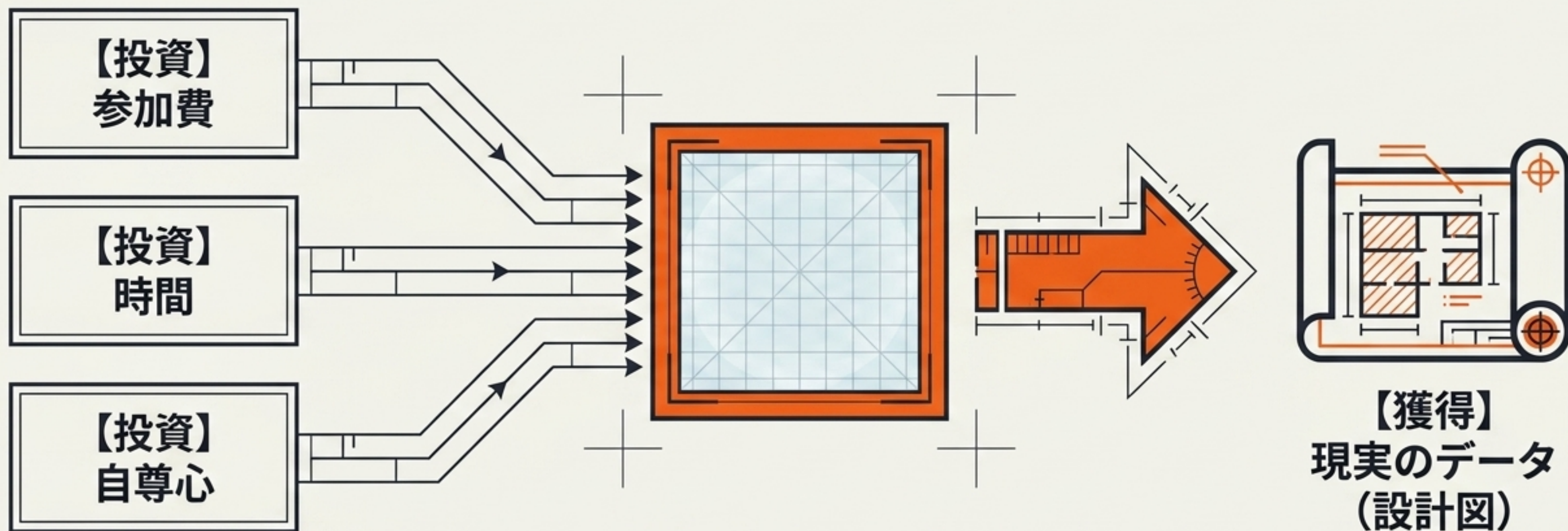
**本当に恐ろしい「損」とは、
負けることではない。**

勝ち上がれない理由を知らないまま、
勝てる場所だけで自分を強いと錯覚し
続けること。

自分の未熟さが見えなくなる罠こそが、
最も高くつく代償である。



敗北を買うのではない。「現実」を買い取るのだ



「勝てそうだから出る」という動機は脆弱だ。参加費を払い、自尊心を削ってでも、
「今の自分の『壊れ方』を見に行く」という姿勢を持てる人は圧倒的に強い。

試合後の「壊れ方」をアップデートに繋げる3つの照準



1. 速度の限界

相手のどのショット、どのテンポから思考と身体がついていけなくなったか？



2. メンタルの崩壊点

どこを攻められた瞬間に、焦りや諦めが生まれたか？

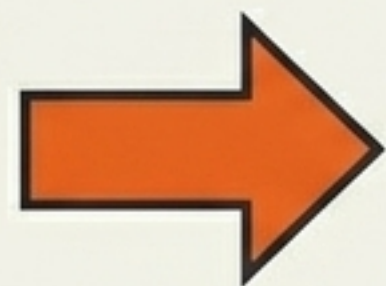


3. 準備の露出

普段の練習の「どの甘さ」が、上のレベルでそのまま露呈したか？

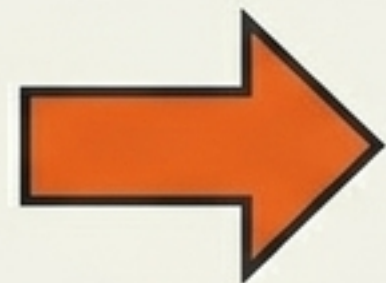
残酷な現実を回収し、感情をデータへ変換せよ

恥



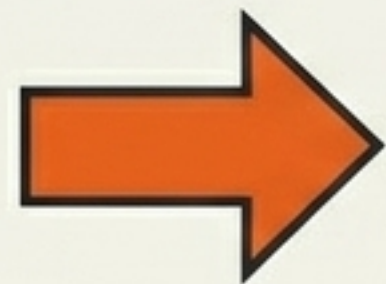
情報

悔しさ



設計図

敗北



最高の実践テーマ

この変換ができたとき、人は本気で生まれ変わる。



**勝てる場所に逃げるな。
負ける場所へ行け。**

自分の壊れ方を愛せ。
ポンコツな現在地をすべて回収し、
そこから思い切り生まれ変われ。
未来の自分を創るための、最も正直な特等席へ。